



鈴木地区の文化から 広く愛される郷土芸能へ

鈴木ばやしは、時代の移り変わりによって隆盛と衰退を繰り返してきました。そして、さまざまな人たちの協力によって現在では広く人々から愛される郷土芸能として続いています。

小平市無形民俗文化財に

昭和30年代以降、小平は農地の宅地化や団地の建設など、農村から住宅地へ都市化が進んでいきました。そして、人々の生活様式や娯楽が変わっていったこととお囃子への関心が薄くなり、小平の村に伝わった江戸祭囃子は鈴木地区以外は途切れてしまいました。

鈴木ばやしも、太平洋戦争中の中断や継承者の減少など、何度か消滅の危機がありました。

昭和45年(1970年)、鈴木ばやしの文化的な重要性が評価され、小平市から無形民俗文化財に指定されました。そして、同時に小平市鈴木ばやし保存会が結成されました。

無形民俗文化財に指定される以



前は、鈴木ばやしは鈴木ばやし連中(鈴木ばやしを演じて継承している人たち)が祭礼などに出演した謝礼などを資金として伝承・保存してきました。しかし、お囃子は高価な道具や衣装を必要とし、提灯など消耗品の修繕費が多かります。そのため、鈴木ばやし連中に大きな負担がかかっていました。そこで、保存会が中心となって賛助会費を募り、伝承や保存の協力をして鈴木ばやし連中が活動しやすい環境を整えていきました。また、住む地域に関係なく鈴木ばやしに参加できるようにになり、後継者の育成も進んでいきました。



主な活動

- 4月 上鈴木稻荷神社祭礼
小平神明宮祭礼
- 5月 美園町祭礼
- 8月 灯りまつり
(小平ふるさと村)
- 9月 大沼田稻荷神社祭礼
熊野宮祭礼
鈴木稻荷神社祭礼
- 10月 武蔵野神社祭礼
小平市民まつり
学園西町祭礼
- 11月 小平市産業まつり



山車(だし)

山車とは、人の力で動かせるように台車の上に舞台を載せたものです。

初めて鈴木ばやしを山車の上で披露したのは、昭和51年(1976年)の第1回小平市民まつりです。このとき、鈴木ばやしは山車を持っておらず、東村山市久米川町の熊野神社から借用したものでした。山車の上で演じられた鈴木ばやしへの反響は大きく、「小平市の無形民俗文化財にふさわしい山車を作ってほしい」との要望が高まりました。そこで、市民から建設資金を募ると瞬く間に目標金額を上回る、約1300万円もの額が集まりました。この資金で建設された山車は第3回小平市民まつりで初めて披露され、以後祭礼など(小平市民まつり、鈴木稻荷神社祭礼、武蔵野神社祭礼など)で使われています。

鈴木ばやし映像記録

(実演公開編、解説編)

曲や舞の解説を収録しています。映像は、小平市立図書館で見ることができます。また、小平市ホームページからは、映像の一部をご覧になれます。



小平市ホームページ
QRコード



がんにや

般若(はんにや)がなまって、がんにやと呼ばれたとする説があります。勇ましい曲に乗って、悪いものをやっつける魔よけの願いを込めて舞います。



ためき

種まきや収穫など、農作業の場面に多く登場します。酒が入ったとっくりを持ち、豊作の喜びを表現するなど、五穀豊穡の願いが込められています。



道化(どうけ)

種まきやくわを使った農作業、水くみなどの日常生活のしぐさをまねて、からかうような動きで舞います。